

これらの紙片は、アナザーエデンのストーリーを読む時に重要な要素になると思います。

<1部で見つかった紙片について>

おそらく時の女神はフィーネの母のマドカ。

これはマドカを円と書き、ツブラの玉の記載から間違いないと思われます。

夢意識は解決したように思えますが、ジェイドとサキの父親がどのような実験をしていたのかは明らかになっていません。

これらの紙片がメインストーリーと関連するなら、輝ける民の力とサキの力は何かしらの関連性を持っていると考えられます。

影国奇譚の「ある者」とアルトレジは輝ける民について調べていたと思われますが、ここで登場する大人びた少女と乙女が同一人物であるとは限りません。

輝ける民の聖典にあるサリーネとヴェルジュは今のところ、メインストーリーとの繋がりを見い出せませんが、先にお話したサキの力に関係していることは確かと思われます。

全体的に詩文が多く、その一つ一つの言葉が何を意味しているのか、分からないままです。

いえ、正確には明確な手がかりがないというべきです。

<2部で見つかった紙片について>

花嫁修業とアナデンの某キャラについて繋げるのは簡単ですが、それ以外の可能性に関しては分かりません。

温泉案内書はその記載から時の流れと三途の川を想起させますが、既存の伝承とアナデンを容易に結び付けるのは避けたいと考えています。

月の青年にしても同じで、日本人の心に根ざした伝承を想起させることで東方の情景を表現している可能性を検討するくらいしかできません。

月に関する天文学的な用語と雨の海と雪の大陸を繋げることもできそうですが、これがアナデンのストーリーに直結するかどうかは分かりません。